

# カトリック六甲教会 教会報

2010

2

No. 458

## 一つの霊に結ばれた教会

片柳 助任司祭



先日、ミサの中で次のようなパウロの言葉が読まれました。  
「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。」(I コリント 12:4-7)

これは教会のあり方について大きな指針を与えてくれる言葉だと思います。教会に集う人それぞれに与えられた能力は違うけれども、それらの力の源になっているのはただ一つの霊、すなわちイエス・キリストの霊だけだということです。

例えば、ミサにおいてわたしたちを動かしているのはこの一つの霊です。ミサの中で、霊の力によってある人は歌を上手に歌い、ある人はオルガンを演奏し、ある人は懸命に祈り、ある人は説教をします。ですが、わたしたち1人ひとり動かしているのはただ一つの霊なのです。霊の促しのままに、それぞれがミサにおいて与えられた奉仕の役割を果たしていくとき、ただ一つの霊がミサを作り上げていくのです。

ですから、わたしたちがミサに与る前にすべきことは、どんなにうまく歌おうとか、あんな技術を使って演奏してやろうとか、ことさらに敬虔な振る舞いをしようとか、いい話をしてやろうとか考えることではなく、ただこの霊に心を開くことだと思います。霊に心を開くとき、わたしたちがそれぞれの役割を果たすのに十分な恵みが与えられます。その力に動かされて奉仕したときにのみ、わたしたちは一つの霊において一つに結ばれたミサを作り上げていくことができるのです。

このことはミサだけでなく、教会のすべての活動にあてはまると思います。バザーをするにしても、コンサートや講演会をするにしても、一人ひとりが同じ霊に心を開き、同じ霊に動かされてしたとき初めて教会「全体の益」となるのです。一つの霊に心を開き、一つの霊の力に突き動かされて、一緒にすばらしい教会を作り上げていきましょう。





## みんなの広場

### 教会でも仕分け？

昨年、鳩山政権が誕生して注目を集めたものに事業仕分けがあった。だが、実は私も教会で仕分けをしていることに気がついた。教会で人に会うごとに、自分に用のある人となない人、気心の知れた人とそうでない人等など、要するに自分の思いでとっさに人を “仕分け” して、関係ないとみるとすかさず視線をそらしているのだった。ささいなことのようにだが、神の庭でふさわしいことなのか、改めて考えた。

#### 会釈の “マニフェスト”

会釈という言葉がある。「挨拶」と同様、もとは仏教用語だそうで、互いにちがって相容れないように見える教説でも、これを突き合わせ、吟味して、双方に通じる共通の真理を明かにする、といった意味であり、そこから相手の立場を考えると、思いやり等の意味が派生し、又お辞儀や愛想という行為や態度にもつながった、というのも頷ける。

このことを今、人間とくにキリスト者にあえて置き換えて考えると、自分の知らない、用の無い、あるいは気が合わないと思われる相手であっても、実はキリストによって自分と深くつながっている、という共通の真理を認めること、といってもよいのではないか。そこから自ずと会釈する行為につながる筈である。

ところが人間弱いもので、実際は、にこりともしない、通り一遍な会釈になりがちで、それが教会であれば尚のこと、冷たくて無視されたように相手には映るだろう。知らずに人のつまずきになっている場合もけっこう多いのではないか。そうでなくても教会で忙しげな顔、何か他の者や事を追っている顔に終始していないかどうかと反省させられる。

目指したいのは、目づかいのやさしく、口もとをゆるめた微笑の会釈である。知らない人との会釈など、一般に日本人は不得手とされているが、自然な作法としてのやさしい会釈が身につくまではせめて教会の門をくぐった時から、それまで一杯に詰った自分の思い（用事などの目的意識も）を一旦手放して、心を空にしておきたいと思っている。これが教会での私の、公約ならぬ自分自身への自戒の “マニフェスト”（約束）である。

笑みと言ふ無言の会釈温かし (田中暖流)

春寒（はるさむ）と言葉交せば人親し (星野立子)

以上、正月のミサ説教で、松村神父様が仏教用語の「挨拶」について教えて下さったのに触発されて書きました。

(柴田)



## 2009年のクリスマス

皆さん。昨年のクリスマスは例年と少し違っていただけにお気づきでしたか？それは、馬小屋や外の掲示板の事です。私たちにとってクリスマスは大きな喜びですが、日本では商店街やデパートのジングルベルばかりが聞こえてきて、サンタクロースのプレゼントとパーティをする日のようになっています。宣教部では何とか六甲教会から本当のクリスマスの意味を知らせたいと待降節前から準備を始めました。今年は松村神父様のご示唆もあって、まず馬小屋を例年の場所から玄関の入口に飾りました。そして、待降節に順じて登場人物が現われるように設定されました。施設管理部や婦人会の皆さんのご協力で武庫神父様の時代から続いている馬小屋も少しずつ進化しています。また、外の南掲示板を待降節からご公現までクリスマスの飾りにしました。これも、聖書の流れに沿って景色が変わるように設定されました。狭いところをうまく工夫してディスプレイを作ってくくださったのは幼稚園の先生である立石さんと村田さんです。それぞれのタレントを生かしてくださったことを感謝したいと思います。

(宣教部 藤原)



教会の外の掲示板



聖堂入り口の馬小屋



## 越年越冬 炊き出し

2010年元旦、寒波の来襲で空気がピリピリと張り詰めたようなこの冬一番の冷たい朝となりました。越年越冬の炊き出しが三宮東公園噴水南側で行われ、カトリックの当番が1日と5日とのことで、私たち夫婦も初めて参加致しました。10時半、公園に着くと、大きな2つのお鍋からはもうすでに湯気が立ち昇っており、防寒着に身を包んだボランティアの人々が老若男女50人~60人は集まって居られました。マシア神父様、片柳神父様、シスターの方の姿もありました。若者も沢山集まっています。主宰の「神戸の冬を支える会」のリーダーの方からの仕事分担の説明があり、そのあと作業の開始となりました。なにしろ300食を準備するのですから、野菜を刻むだけでもまな板がずらりと並びます。冷たい水での洗い物も手の感覚が無くなるくらいでした。若者も慣れない手つきで大活躍です。12時を過ぎた頃から噴水の周りをぐるりと一周する位の人々が集まり始めました。メニューは具沢山のお雑煮とゆかり振りかけの炊きたてあつあつご飯です。体も心も温かくなって欲しいとの想いで皆さん手際よく配られました。

大きなボストンバッグを片手に並んでいる人もいました。身の回りの品が入っているのでしょうか。生き倒れて亡くなった方々の名前が印された鎮魂のボードが置かれてありました。「帰る家のない人」この寒風の中、雨が降る日もあるでしょう。どんな想いで風雨をしのいでいるのでしょうか。今日温かい1食分の昼食は用意されましたが、その後は何の保障もないのです。私達にはほんの一部、ほんの一瞬のお手伝いしか出来ないのだと痛感しました。でもそこには、受ける方にもボランティアの方にも笑顔があって心が和みます。それは愛、神様からのお恵みの様な気がしました。

(川合)

多くの六甲教会の皆さんとともにカトリック当番日の1月1日と5日に参加した。殆どのゲストの人がきちんとした服装をしていること、比較的若い人が多いことが印象的であった。

私はゲストが食事を終えて食器を返却に来るとき洗い場の前で食器を受けとり、美味しかったですか、お味はいかがでしたか、と声をかけた。殆どの人が笑顔で美味しかった、と答えてくれた。中には、少し味が薄かったよという感想を述べてくれた人もいた。

数人のゲストからお話を聞く機会を持った。

1. Aさん(58歳、男性)のケース：コマ回しをして遊んだ後、近況をお聞きした。彼は生活保護を受けている。月の初めに役所へ行きその後はX教会のYさん(女性)が代行して生活保護費を分割で受け取り、Aさんの家賃・光熱費を支払った残りをAさんに渡している。Aさんは、Yさんから毎週お小遣いももらっている、と表現していた。いわばYさんは民生委員の役割を果たしているのである。Aさんのような弱者が近辺にいるX教会と六甲教会とはその環境がだいぶ違うようである。ある意味では、六甲教会は奉仕活動についてはハンディキャップを負っているともいえる。
2. Bさん(50歳、男性)のケース：勤務していた東大阪市の会社が倒産し、失業保険が切れた後、生活保護を受けるため役所に向かったところ、代行を請け負うというグループの人から声をかけられた。銀行振り込みを依頼したところ、そんな必要はないといわれ、不自然に感じたので断った。彼らは生活保護代行手続き詐欺集団だったのだ。東遊園地に来て相談員に住居の相談をしたところ、すぐに役所に連絡を取ってくれて、明石でも良いですか、良ければ3時半までここで待っていてください、と言われた。住むところが確保できそうなのでとても嬉しそうな顔をしていた。弱者を食いものにする詐欺集団の存在は困ったものである。生活保護を受けている人たちを架空の患者にしたてて、診療報酬を請求する医療機関、補助金をくすねる福祉関係に携わる人などの不正行為を耳にするにつけ、日本も貧しい国に成り下がってしまったな、とってしまう。
3. Cさん(50歳前後、男性)のケース：大震災以前からの日雇い労務者。大震災直後は日当18,000円で毎日のように仕事にありつけたが、最近は良くて8,000円程度、しかも毎日仕事があるわけではない。アルミ缶や古新聞を回収して暮らしている。定職に就けず路上暮らしに近い状態。生活保護申請を勧めたところ、そんなことをしたら村八分にあう、という。粘り強く説得を続けたところ、ようやくその気になってくれた。誰に相談すればよいかは分かっている、とのことだったので無責任にもそのままにして別れた。村八分と聞いて自分の耳を疑ったが、今日でもそのようなことが現実にあるのであろうか。生活保護を受けるような者が出るというのは村の恥になるとのこと。いやはやなんとも。



市場主義は弱者に厳しく強者に有利となりがちである。前政権が推進した政策の副作用がいたるところに出てきている昨今、佐和隆光氏(元京都大学教授)が提唱する「第三の道」をどのように目指すのか、その中で私たちが何をしなければならぬのか、ということを考えさせられる良い機会を与えていただいたと感謝している。

(柁木)

2010年1月1日 元日 午前10時、私、筑田は神戸市中央区、東公園にいた。天気は大変良かったが、昨日からの強い北風に運ばれて来た寒気のせいで大変冷え込んでいた。この寒さの中、ボランティアによる炊き出しの準備が始まっていた。まずはテントの設営から、ベテランらしき人達が 慣れた手付きでテントを組み立て出す、遅れまいと設営に加わるが、金具が歪んだねんきの入ったテントの設営はコツを知らないと金具が止めれなく大変である。複数のテントを設営した。そのうちのひとつをブルーシートで囲い隔離テントを作った。後で説明があったが、そのテントはボランティア参加者の避難所とのことであった。ボランティア参加者や、支援を受けている人の中に心無い人がいて、ボランティアの人につらく当たることもありそのときの避難場所だとのことであった。まあなんともさびしい話であるが人が集まれば何らかのトラブルがあると言うことのようにであった。幸いこの日は避難場所を利用する人はいなかったようであった。テント設営、机、いすの準備完了したころ、いつの間にかボランティア参加者もずいぶんと増えていた。いったん集まり開会式がありその後はお昼に向けて食材の加工、調理とあっという間にお昼になった。この日のメニューは正月らしく餅入りの雑煮であった。気がつけば公園にはすでに食事を求めてきた人の大きな列ができていた。食事が配られ始めると今度は食器洗いの作業が始まる。仕事が落ち着いてきたら、ボランティア参加者もそれぞれ炊き出された雑煮を食べることができた。朝から参加して炊き出しが終わったのが14時ぐらいであったが、あっという間のひと時であった。

私は外国で見るような親子の路上生活者と言うのは日本ではまだ見かけたことはない。今日の炊き出しでも見かけたのは40歳以上の人たちだったと思う。若い年齢層の人には何らかの仕事があるのだろう、子供であれば国の保護があるのであろう。日本が経済的に豊かだったから路上生活を強いられる人が限られているのだと思う。日本の国家が経済的に破産しているのは周知の事実である。毎年、国は借金をしながら生計を立てているから国民生活に影響が少なく破産している事実が実感しにくい。お金を借りることができなくなった日、国家倒産の現実が日本国民を襲う。私は日本国全体が釜が崎のような状態になる日が来ると思っている。不謹慎ではあるが、路上生活者に若年層がまだきわめてすくない現実と、路上生活者を支援できる余裕が社会にまだあることを見て少し安心をした。年の元日はそんな元日であった。

## 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰 行事報告 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

### 教会学校 お餅つき

教会学校では1月9日（土）、『始業式』と『餅つき』を行いました。久しぶりに見る子供達の顔は少々大人びて輝いていました。冬休み、大きな事故もなく成長した子供達と再会できましたこと、何より嬉しく思いました。

「お餅つき」、子供達は6班に別れ、リーダーや教会関係者の方々が準備下された、杵と石臼でお餅をつきました。熱いうちに「もち粉」をひいた箱の中に入れ、ちぎってもらった餅を丸くまるめました。丸くするのが意外と難しい。おへそみたいに裏側がポコッとへこんだり、ポッコリしたりしてしまう。1つ2つと丸めるうちにとっても上手になって表面がつるんとした綺麗なお餅ができました。

ついたばかりのお餅を、大根おろし、きな粉、のり、砂糖醤油などでいただきました。矢張り、砂糖醤油が甘くておいしいと人気がありました。大根おろしは少々不人気かな？ つきたてのお餅はおいしくて幸せ気分になりました。

杵が重かったけど、つけて楽しかった。重い杵を持って頑張ってつきました。自分でついたもちを食べられたことがすごく嬉しかった。みんなと作ったお餅は格別においしい。あんこ餅が食べたかったな。チーズ餅も欲しいな。子供達の思いは様々。お餅つきの順番を待つ間、「バーバーパパ」や「ディズニ



一」の楽しいビデオを見て待ちました。

天気にも恵まれ、元気いっぱい掛け声かけてお餅つき。とっても楽しく、おいしいお餅つき。心もお顔も丸いお餅になりました。子供達の心に安らぎがありました。

教会学校を支えて下さいました皆様に心より感謝致します。

(リーダー 山本)

~~~~~

## 成人式

今回20歳の誕生日を向かえ成人式に出席し「ああ、本当に20歳になったんだなあ」と改めて実感しました。そして、20歳になって改まっていろいろと思う事がありました。それは20年間なんていうのは本当にあっという間で、すぐに過ぎてしまったなあということです。昔はあんなにならなかつた大人です。でもなってみるとそれは案外普通なもの、自分はどこがどう変わったのか、どう成長したのかなんてあまり実感できなくて、むしろあんなに大人になりたいと思っていたのに、「あの頃に戻りたいなあ」とか思ったりもします。そういう時にやっぱり未熟だなあと感じます。そして本当にこれからどうしていこうかと考えると不安なことがいっぱいあり、たくさん迷います。私はずっとずっとこれからも迷いながら生きていくのだらうと思います。でも、今回20年があっという間に過ぎていったように時間はすぐに過ぎてしまいます。その迷いながらも進んでいく時間の中で見つける大切なものや大切な人を心から守っていきたくて考えています。どんなに迷っていても信念を持って生きたいです。そしてその礎に、私の中には信仰があるのだと思います。

今回は教会の皆さんにお祝いをしていただきありがとうございました。これからまだまだ迷いながら、ぶつかりながら、いろいろあると思いますが、心の礎を大切に、前に進んで行きたいと思っています。これからもさまざまな場でお会いすると思いますが、よろしくお願ひします。(吉村)

~~~~~

1月10日10時のミサで、私を含め7人の新成人が神父様から祝福を受けました。以前教会学校と一緒に遊んでいた友達と久しぶりに再会した人もいました。普段ジーンズをはいてラフな格好をしている私もこの日だけは振袖で身を包みエレガントになった気分でした。ミサで祝福式が終わった後、イグナチオホールでパーティーがありました。パーティーでは、これからの抱負をわたしたち新成人がそれぞれ発表しました。教会からのプレゼントも頂き、和やかな雰囲気ですべてのパーティーが終わりました。プレゼントの中身は写真立てとロザリオでした。写真立ては普通ではなく両開きのもので左側には「わたしの目にはあなたは高価で尊い。私はあなたを愛している。」という聖句が記されていました。ロザリオは



シスターが選んでくださった黄水晶の温かみのあるロザリオでした。これからは試練の時でもこのロザリオをかけてイエス・キリストにつながっていることを忘れないように日々過ごしたいと思っています。その日は大勢の人たちから「おめでとう」と声をかけていただきとても嬉しい1日でした。これからはこの「おめでとう」の言葉をしっかり胸にとめて失敗を恐れなくてチャレンジ精神を忘れずに進んでいきたいと思っています。ありがとうございました。

(井川)

## 〰〰〰〰〰 新年会 〰〰〰〰〰

### 【婦人会】

1月15日10時のミサ後、50人程の出席を得て新年会が始まりました。役員さんが準備して下さったきれいでおいしいお弁当、花びら餅等。恒例の神父様のかくし芸は安芸神父様の独白？に始まりました。答えは出ませんでした。皆は神父様の暖かさと優しさは良く分かっております。次は松村神父様。「アメイジング グレース」に続き、目をつむって聞いているとさとう宗幸さんが歌っているかのような「青葉城恋唄」・・・素敵でした。これを聞いただけで出席して良かったという声もありました。

クイズは班別対抗の〇×クイズ。頭の体操と思いきや、全て勘を頼りの当てずっぽう。「公魚」「海象」は？皆さん読めますか？答えは「わかさぎ」「せいうち」だそうです。その他イエズス会に関する質問。良く勉強させていただきました。

後二ヶ月を残しておりますが、役員の方々にはご苦労様の言葉と感謝の気持ちを捧げ、いろんなことを抱えながらも新しく引受けてくださいました新役員方々にも感謝申し上げます。

松村神父様のお話の中で「婦人会の活動が活発な教会は元気です」というお言葉がありました。皆様方のお手伝いがあるからこそその活動だと思います。心をひとつにして支えていければと願っています。

(福島)



### 【壮年会】

■ 日時：2010年1月17日（日） ■ 場所：信徒会館2階第一・第二会議室

また、新しい年が始まり、1ヶ月が過ぎようとしています。壮年会は松村神父様と安芸神父様にもご参加をいただき30名が一堂に会し、今年も元気でとの願いをこめて新年会を開きました。それに先立つ10時のミサでは、松村神父様の司式で15年前の阪神大震災で亡くなられた6,432人の方のご冥福を祈って黙祷が捧げられました。折りしもカリブ海の島ハイチでは同様の直下型のM7以上の地震が発生した直後であり、神父様は『どうして弱者にこんなひどい試練を与えられるのかと神様に言いたくなる一方で絆・つながりの大切さを感じさせられた』とおっしゃいました。当日の聖書と典礼はカナの婚宴の箇所でしたが、神父様は、「マリア様と婚家の使用人たちはイエス様を信じて行動した。」と締めくくられました。

新年会は松村神父様のお祈りに続き、榎木会長挨拶と乾杯の音頭。なごやかに歓談。食事が進む中で、今年の抱負を参加されたお一人ずつに語っていただきました。参加者の年齢をみますと、60歳以上9割、65歳以上8割、70歳以上6割平均年齢は70歳と年々高齢化が進んでいるのを実感します。避けて通れない介護の問題、気力・体力の衰えなどの事柄が忌憚なく述べられました。それにも負けずに夫々の状況の中で関わりを持ち、努力をされていることがおだやかな話しぶりの中で伝わってきました。また衰えは感じてでも何からの形で教会の為に役立ちたいという思いも多くの方から披瀝されました。独居老人・孤独死・老人介護・認知介護などの重い事柄と共に地区会の課題も話題になりました。

(松村神父様は中央教会での阪神大震災追悼ミサのご予定もある中、終わり近くまでご参加いただきました。)最後に安芸神父様が『イエス様を中心に集っているのであって、単に親しい者同士の親睦ではないことの自覚が必要』と締めくくってくださいました。普通に言われる新年会とはちょっと違うねと言われそうですが、良い交わりができたのではないかと思います。(飛石)

## ~~~~~ 震災ウォーク・祈念ミサに参加して ~~~~~

1月17日に震災ウォーク・祈念ミサに参加しました。震災の日のようによく晴れた日でした。一緒に行った教会学校の子どもやリーダー達とワイワイ楽しく、また他教会に通う同級生と東ブロックのことや震災当時のことを話しながら歩きました。亡くなった友人達の中には、まだお墓のない友達もいます。ミサの中で、その両親の悲しみの深さ、亡くなったたくさんの方々やその遺族の方々のことを思い、「震災があったから」いろんな大切な物に気付いたとは思いたくないと強く感じました。毎日の小さな幸せや穏やかな日々を当たり前のように通り過ぎがちな自分自身を反省した一日でした。

ウォーク中に、同じように震災を思いながら歩いている他の団体の方々に出会いました。行事に参加している人達だけではなく、この歩いている姿を街の人々が見て、震災を思い出し、「あの人はなぜ歩いているの？」と問う子どもに震災のことを伝えて行くことが大切だと感じました。震災ウォークや祈念ミサにもたくさんの小さな子ども達が参加し、また住吉教会の中高生達が道案内のためポイントに立っていてくれました。震災を知らない世代と共に、命の尊さや人と人とのつながり、日々の糧を大事にしていく心を分かち合えたことをとても嬉しく思います。  
感謝と祈りのうちに。 (前田)



## ~~~~~ ヤッホー会、摩耶山へ ~~~~~

2月11日、自然が好きな若者たちが集まって一緒に山登りをし、山からヤッホーと叫ぶことで親睦を深めようという主旨で昨年結成されたヤッホー会の第2回の登山があった。1回目から参加している若者の1人が成人式を迎えたので、それを祝う記念の登山にもなった。

今回は、青谷道から摩耶山天上寺跡、摩耶山山頂を經由し、桜谷道を通って森林植物園に下りるコースをとった。休日ということもあって、たくさんの人たちが山道を行き交っていた。なかなかヤッホーと叫ぶような場所が見つからなくて困ったが、天上寺跡でちょうどいい場所を見つけた。わたしたちが大声で叫んでいるのを、遠くから何人かの登山客が笑いながら見ていたようだった。一人なら恥ずかしいがみんなと一緒に大丈夫だという思いもあって、わたしも神戸の街に向かって大声でお腹の底から「ヤッホー」と叫んだ。とても気持ちがよかった。

今回の参加者の中には、新成人だけでなく、今まさに人生の大きな転機を迎えようとしている若者たちも何人かいた。この山登りで神から与えられた恵みに支えられて、彼らが新しい第一歩を踏み出していくことができればと思う。  
(片柳)





2月11日、ヤッホー会(山好きの人の集まり)がありました。この日は、市の成人式でしたが、その前日に教会で成人を祝っていただいたので、小さい頃から山登りが好きだった私はその日は成人になった日を記念して山のほうを選びました。

コースは青谷道から摩耶山天上寺跡を通り桜谷道経由で森林植物園に下るコースです。9時30分に教会を出発し、青谷までバスで行きそこから登山が始まりました。途中休憩をはさみ山頂に向かいました。山頂へ行く途中に古い神社があり、奥へ行くと周囲8mの摩耶の大杉がありました。大杉と神社の前で記念撮影をしました。屋久島の大木のように大杉にしては立派だと参加したメンバーは驚いていました。摩耶山頂からの景色は神戸の街が一望でき、六甲教会の鐘楼も見ることができました。六甲アイランドとポートアイランドがとても小さく見えたのは驚きでした。そのあと山頂から森林植物園へと通じる道を歩きました。途中川が凍っていました。木々の間から太陽の木漏れ日が注ぎ、足場はふかふかの落ち葉のじゅうたんで気持ちよい足の運びで眠くなり、参加者がほとんど無口になり、なんともいえない美しい静寂でした。森林植物園はこの時期はヤブツバキ以外の花はほとんど見られなかったです。しかし



冬の枯葉の下からこれから春に向かって芽を出そうとする生命の声が私には伝わってきました。春への希望がわきエネルギーをもらいました。森林植物園からはタクシーで“すずらんの湯”へ行きました。温泉で1日の疲れを癒しました。その日は、自然から創造する力をもらったような気がしました。これからの私の制作に活かせたらいいと思います。ヤッホー会に参加して良かったです。(井川)



## ご協力に感謝いたします

皆様をお願いして集めて参りました「エコキャップ」、総量14キロ、5600個を昨年12月22日に初出荷いたしました。キャップ5600個でCO<sub>2</sub>が44キロ削減できました。また800個で1人分のワクチンが購入できます。今回の数量は7人分のワクチンに相当します。

エコキャップ推進協会へ集りました収益をJCV(NPO法人。世界の子どもにワクチンを日本委員会)へ寄付し、ワクチンが購入されております。

六甲教会だけで考えますと小さな力ですが日本全体で見ますと大きな力になります。引き続き教会学校ではキャップ回収をおこなって参りますので、ご協力宜しくお願い致します。

目的：再資源化を促進することにより、地球環境の改善。キャップ売却益で世界の子どもたちにワクチンを届け、命を救う。

キャップはきれいに洗い水気を拭取ってお持ち下さい。

(教会学校)

## 《お 知 ら せ》

### 【社会活動部より】

2月3日(水) 10時 ♪ 手芸の集い (第1・2会議室) どなたでもご参加できます。

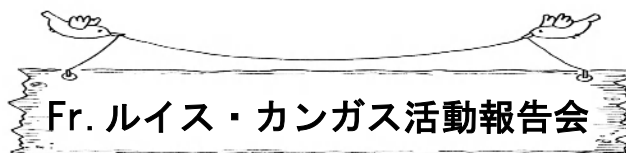
5日(金) 初金ミサ後 ♪ 社会活動部連絡会(第1・2会議室) どなたでもご参加できます。

7日(日) 14時 ♪ Fr. ルイス・カンガス 活動報告会 (イグナチオホール)

13日(土) ♪ 今月の炊き出しはお休みです。

21日(日) 9時ミサ後 ♪ ミニバザー(イグナチオホール) お弁当、食料品、手作り作品販売。

22日(月) 9時30分 ♪ ともしび ケーキ作り (お台所)



2月7日 14時 ～ 於：六甲教会 イグナチオホール

例年、六甲教会信徒の皆様のご協力でご支援しております、チャリティー献金先の一つ、“バタンバン友の会”より、会長のFr.ルイス・カンガス(イエズス会司祭)をお招きし、活動報告会を上記の通り開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

## 各 部 だ よ り

### 📖青年会

2月14日(日) 定例会 12:30～助任司祭室  
内容:「分かち合い」  
28日(日) 定例会 12:30～助任司祭室  
内容:「分かち合い」

### 📖教会学校

2月6日(土) 通常  
13日(土) 通常  
14日(日) 子供とともに捧げるミサと  
J. K. クラス  
20日(土) ホールミサ  
27日(土) 通常

### 📖養成部

2月6日(土) 祈りの道場  
指導者: 英 隆一朗  
時間 : 10時～15時  
15時～ミサ  
場所 : 六甲教会主聖堂  
費用 : 600円(昼食代)  
申し込み締め切り 2月1日(月)





## 図書紹介

以前に、多分この同じ項目で、別々にご案内した事があると思いますが、今回はこの2冊の本を同じ目的の為に紹介したいと思います。最近、黙想をなさる個人の方とか、小グループの方の話をよく耳にします。それで、今日、改めて紹介する2冊の本を、私自身よく便利に使っているのので、この紙面を借りて、お知らせします。黙想といいますと、どこかのグループに参加するとか、どこかの黙想の家でと考えがちで、それも大切な一因をもちますが、自分の部屋で、気軽に聖書とノートを持って、主キリストと対話するのも楽しい黙想です。一ヶ月に一度、適当な半日を主と共に過ごす事ができます。そのために一番やさしい方法として2冊の本を紹介したいです。

第一の本は、「自分を知り、神を知る」カルロ・マリア・マルティーニ枢機卿著 女子パウロ会発行

これはミラノ教区の神学院の学生の為に枢機卿が行なわれた黙想会の講話集で、本のタイトルがテーマになっている、『レクチオ・ディヴィナ』の方法を使った黙想の指導書です。導入の個人黙想の方法に説明されていますが、『レクチオ・ディヴィナ』は昔から使われている「聖書による祈り」の一つの方法で、現教皇もこれを勧めておられます。黙想の進め方は5段階に分けて丁寧に説明してありますから、少し馴れられると、この部分が終わられた後で、9つの箇所を使って実践することが出来ますから、このやり方に馴れられることで、もっと広く、深く主との対話に入ります。祈りには心と熟練が必要です。

第2の本は、「思い起こし、物語れ」 — マルコ福音書のメッセージ 上・下

シルヴァノ・ファウスティ著 女子パウロ会発行

上記の『レクチオ・ディヴィナ』でやり方に馴れましたら、この本を使ってマルコの福音を通して、神の業と主キリストの慈しみを体験するのはどうでしょうか？マルコ福音史家は、彼の福音を読み始めた者を直ぐに福音宣教の世界に投げ込みます。著者も言っているように、先ず、イエスを知る立場に、ついでイエスと親しくなり、最後にイエスを限りなく愛するようになり、遂に教会の中で、み言葉から洗礼へ進み、感謝の祭儀にまで至るようになります。つまりキリスト者が形作られていきます。この本をどんな風を使いながら、黙想に入るかは、最初の所に丁寧に説明してあります。根気よくイエスを知り、親しくなり、愛するようになるまで、主も私達の霊的成長と共に歩んでくださると確信しています。信仰を保つには愛と忍耐が必要です。

第1の本から始められて、第2の本に進まれ、毎月1度でも続けてなさるようにお勧めいたします。

(三輪)



## 2月の予定

日	曜	教会暦	教会行事
2	火	主の奉献 (祝日)	
5	金	日本 26 聖人殉教者	初金 7:00 10:00 ミサ
6	土	聖アガタおとめ殉教者	10:00 祈りの道場 (15:00 ミサ)
7	日	年間第5主日	14:00 第4回結婚準備セミナー (2/28までの毎日曜日) 17:00 海星病院ミサ 高山右近列福祈願ミサ (高槻教会)
10	水	聖スコラスチカおとめ	
11	木	世界病者の日 (ルルドの聖母)	11:00 聖体授与の臨時の奉仕者の集い
13	土		10:00 拡大小教区評議会
14	日	年間第6主日	17:00 海星病院集会祭儀 新教会建設献金の日
15	月		14:00 三日月会ミサと例会
17	水	灰の水曜日 (大斎・小斎) 四旬節愛の献金 (四旬節中)	7:00 10:00 19:00 ミサ (各ミサ中に灰の式)
20	土		10:30 神戸地区聖体奉仕者の集い (15:00 ミサ) 於: 生徒研修所 14:00 教会学校ホールミサ
21	日	四旬節第1主日	洗礼志願式 (9時ミサ中) 17:00 海星病院ミサ (灰の式)
22	月	聖ペトロ使徒座	11:00 ベビーとママの集い
26	金		10:00 集会祭儀と十字架の道行き
28	日	四旬節第2主日	17:00 海星病院集会祭儀

### 編集員のつぶやき

夜空を見つめた。満天の星。季節風に磨かれて星は輝くという。まさに凍て付くような寒い夜、星々は美しく輝いていた。南の空を眺めオリオン座を探す。オリオン座の1等星「ペテルギウス」が死の直前と新聞で知った。目の悪い私にはペテルギウスは見出せない。まだ若く数百万歳(太陽は46億歳)。最後は爆発を起こしブラックホールなどになるらしい。

この宇宙をめぐる、ガリレオは命がけで地動説を唱え、アインシュタインは宇宙が閉じられているのではないかと説いた。凡人には何も分からぬが、人の小ささ、無力さを感じる。万物の流転、被造物の定まりなさを感じる。( 浮き雲 )

教会報3月号の発行は2月28日(日)です。

編集会議は2月21日(日)です。

記事原稿は、2月14日(日)正午までに信徒会館

受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

### カトリック六甲教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21

電話 078 - 851 - 2846

FAX 078 - 851 - 9023

発行責任者 松村 信也

編集 広報部